

卵巣明細胞癌の遺伝子変異と Grading System の関連性の検討

1. 研究の対象

1984年1月～2019年9月までの間に当院で治療を受けた卵巣明細胞癌の患者さんが対象となります。

2. 研究目的・方法

卵巣癌の組織型には代表的なものとして、漿液性、類内膜、明細胞、粘液性があります。

漿液性癌と類内膜癌は腫瘍の分化度（悪性度）に応じて Grade がつけられています。Grade が高いほど進行が早く抗癌剤が効きやすいとされます。しかし粘液性癌と明細胞癌には Grade が使われていないのが現状です。

日本においては欧米諸国の割合と異なり（欧米諸国では明細胞癌は全体の5%程度）明細胞癌が全体の約1/4を占めています。日常診療でも比較的高頻度に遭遇する疾患となっており、明細胞癌の予後等に関わる因子を発見することは本邦にとって重要な課題であると考えられます。そのため当科において明細胞癌の Grading System を構築することを目的とし、研究を行ってきました。その結果 Grade が高い明細胞癌は予後不良であることが示されました。また、漿液性癌は Grade の高さと、腫瘍細胞の遺伝情報に強い相関を認め、個別に治療法が開発されてきているのが現状です。そのため当科で検討された Grading System と明細胞癌の遺伝情報を比較検討することは、漿液性癌と同様に明細胞癌の新たな治療法の開発に大きく貢献できると考えられます。

そこで今回は当院で治療を受けた明細胞癌患者さんを対象とし、既存試料である病理検体を用いて、構築した Grading system によって Grade を分け、Grade の高い腫瘍と低い腫瘍の遺伝情報を解析し、その関連性について検討することを目的として研究を行う予定です。これにより新しい Grading system と遺伝情報に相関を認めれば、Grade 別の治療法などにつながると考えられます。

研究期間は学校長承認後から2023年12月31日までを予定しています。

すでに保管されている病理組織検体を用いる調査研究ですので、研究のために追加で検査を行うことや、新たな検体の採取を行うことはありません。また金銭的な負担が生じることもありません。

研究に協力いただいた方への直接的な利益はありませんが、本研究によってもし明細胞癌の Grade 評価と遺伝情報に相関を認めれば、今後の卵巣癌治療への診療成績の向上の一助になり得ると考えられます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

既に摘出・作成された病理組織を研究に用いて、症例ごとに Grade をつけます。その後保存検体をタカラバイオ社に送付し、遺伝情報の解析を行います。また診療録（カルテ）から病気の発症日（診断日）から死亡・再発・増悪までの期間、治療内容、抗癌剤治療の有無とその効果、癌のひろがり（進行期）、その他日常診療で得られた年齢や身長・体重などの臨床データ及び腫瘍マーカー等の検査データ等を採取し解析する予定です。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先かつ研究責任者：

防衛医科大学病院 産科婦人科 講師 宮本 守員

住所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

TEL：04-2995-1211（代表）内線：2363